



BSR 通信

BSR 推進室ニューズレター第 19 号

平成 27 年 10 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

03-5394-3079 (直通)

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

礼拝堂本尊の阿弥陀如来像

文学部 歴史学科

教授 副島弘道

目次

- 1 頁：巻頭言
- 2 頁：研究ノート
- 3 頁：BSR トピックス
- 4 頁：BSR 図書室・今後の予定

創立 60 周年記念に建てられた礼拝堂には、大正大学の本尊阿弥陀如来像が安置されています。創立 90 周年を記念した『関東の仏像』の刊行時に、さまざまな角度からの撮影と学術的な調査をおこないましたが、そのとき撮った 1 カットです。

本尊像は高さ 86 センチ、両手を胸の前にあげて説法印を結んだ坐像です。日本特産の良質のヒノキを使い、割矧造（わりはぎづくり）という技法でつくられ、像内は大きく内割りされ、重さは 15 キロほどです。お顔や体が黒く見えますが、よく見ると木に布を貼り、漆塗りの上に金箔が押されていて、はじめは全身が金色に輝いていました。

銘や記録はありませんが、仏像の

研究が進んでいるおかげで、作風や技法の特徴から、平安時代の 12 世紀後半ころにつくられたことがわかります。そのころは宇治平等院の阿弥陀如来像に代表される和様彫刻が流行していました。本像もその一例ですが、鎌倉時代になると流行する奥行きのあるからだつきや、現実感のある表現もめばえていて、時代のうつりかわる時期につくられたことがよくわかります。やさしさのなかにも強さを感じさせるこのような仏像は、この時代のすぐれた仏師にしかつくれないものです。

阿弥陀如来像は広島宮島の長くあって、江戸時代には巖島大明神のお守り弥陀像と呼ばれていました。明治 29 年（1896）に巖島の光明院から本学の前身校のひとつ浄土

宗本校に寄付され、大正 15 年の大学発足後は大学全体の本尊となりました。昭和 24 年にはその文化、芸術上の高い価値が認められて、重要文化財に指定されました。

現在、美術工芸品の国宝・重要文化財は約 10,600 件。そのうち約 2,700 件は彫刻であり、そのほとんどは仏像です。つまり、国宝・重要文化財のうち四分の一は仏像です。大学本尊の阿弥陀如来像ばかりでなく、仏像はわが国の歴史と文化を知るためにもなくてはならない貴重な存在であることがわかるでしょう。入学式や法要など開扉の機会には、ぜひそのお姿にふれていただければと思います。

（撮影：清水亮一氏）

研究ノート

仏教新潮流

—若手僧侶と超宗派②—

BSR 通信 17 号で、この 10 年ほどの仏教界の新潮流のキーワードが「若手僧侶」と「超宗派」であることを示しました。今号から、若手・超宗派の僧侶による具体的な活動を紹介してみたいと思います。そして、それらを大きく分けて「発信系」と「実践系」、2 つの流れに分類して、今号は発信系について記してみます。

インターネット寺院「彼岸寺」

仏教に馴染みのない一般の人たちにどうしたら仏教に触れてもらえるか、若手らしく柔軟に社会に仏教を発信をしていこうという動きが見られます。

まず、端緒となったのは平成 15 年にスタートしたインターネット寺院「彼岸寺」<http://www.higan.net/>でしょう。彼岸寺のサイトには、「彼岸寺は、宗派を超えた仏教徒や普通の人達が、新しい時代の仏教について考え、行動

をする、インターネット上のお寺です。」と説明がされています。お寺といえば、本尊があり、伽藍があり、境内があり、というそれまでのイメージをくつがえし、仮想空間に建立された寺院なのです。僧侶によるコラムや在家の女性ライターによる仏教体験記、LINE の仏教スタンプの紹介など、「仏教を説く」というものとは一線を画した内容になっています。仏教を難しいものと思って敬遠しがちな若い人にも敷居が低く感じられることでしょう。

彼岸寺から派生してイベントが生まれたり、連載が書籍化されることもあります。インターネットという若い人にとって手軽にアクセスできる彼岸寺を入口として、より深く仏教を知りたいというニーズが掘り起こされているとも言えます。

入口の多様さ

彼岸寺を開創したのは浄土真宗本願寺派僧侶の松本紹圭氏。東京大学文学部哲学科卒業後、在家から僧侶になり、平成 22 年にはインドに留学し、MBA を取得するという異色の僧侶です。

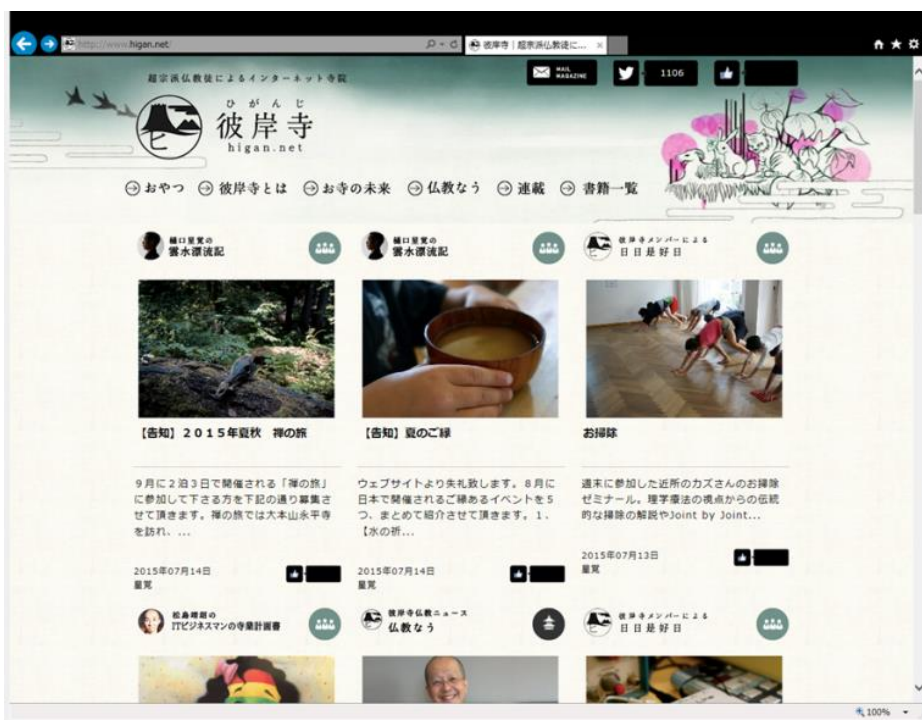
松本氏は、彼岸寺開創と同じ年にお寺の音楽界「誰そ彼」というイベントもスタートさせています。松本氏が所属する東京・神谷町にある光明寺の本堂を会場としたライブイベントで、音楽ライブの前には法話を行なうなど、音楽をメインに聴きに来た人たちにも、本堂という空間や法話などで仏教に触れる機会を持たせることにつながっています。

また、平成 17 年からは、同じく光明寺のテラス部分を一般に開放して「神谷町オープンテラス」を始めます。神谷町は霞が関や虎ノ門にほど近い、ビジネスの街ですが、光明寺のテラスはその喧噪から離れ、眼下には墓所が広がるオフィス街の異空間。昼休みにはお弁当を片手に OL たちが集い、それ以外に時間帯も近隣ビジネスマンの憩いの場になっています。僧侶の手作りスイーツやお悩み相談もうけつける接客が話題となり、寺カフェブームの火付け役になったと言っても過言ではありません。

一過性のブームではなく

インターネット、音楽ライブ、カフェ。どれも、これまで仏教とは縁遠い存在だったといえます。しかし、いずれも一般人、若い世代には、抵抗なく近づきやすいものでもあります。

堅苦しく思われがちな仏教を、法要や布教といった伝統的な形態とは異なる入口から、知ってもらう、感じてもらう。従来になかった発想によって、多くの若い一般の人たちが仏教に触れ、興味を持つようになりました。一過性のブームでなかったことは、彼岸寺も誰そ彼もオープンテラスも、今も存続していることによって証明されるでしょう。こうした展開は、斬新な発想ももちろんですが、その根底に仏教を伝えたいという思いがしっかり流れているからなのでしょう。(O)



BSR トピックス

区民ひろばでの出張講座開講!!

今春（1月～3月）区民ひろば清和第一で BSR 特別出張講座が行われたことは以前にも紹介しましたが、秋から区民ひろば豊成でも「仏教に親しむ」（全4回）の講座が開講されています。

10月8日に行われた第1回では、「仏さまのことに学ぶ」（講師＝高瀬顕功研究員）と題して、日常語になっている仏教語を紹介しつつ、仏教の基本的な教えについてお伝えいたしました。23名の受講者のなかには乳幼児を連れてお母さんもいらっしゃいましたが、みなさん熱心にメモを取られており、仏教に強い興味を抱いていらっしゃる方が多いという印象を受けました。

今後、同区民ひろばを会場に、第2回「心を静める<超簡単！瞑想法>」（11月12日）、第3回「仏さまに親しむ<写仏>」（12月10日）、第4回「仏さまの考えを实践する」（平成28年1月



14日）と開講する予定です。

また、大正大学にほど近い区民ひろば西巣鴨第一でも同様の講座を開講いたします（初回は10月29日）。内容は、「仏教の“ぶ”の字」「仏事・葬儀のいろは」などの教養講座にくわえ、瞑想、写経などの仏教体験講座も行う予定です。

こういった講座の開講依頼を受けるにつれ、仏教系総合大学という大正大学の資源を活かした、地域社会でのかわりがだんだん根付いてきたように思えます。今後の BSR 推進室の活動にも、どうぞご期待ください。（T）

オープンカレッジ開講!!

今年度より、オープンカレッジの中で2つの講座を BSR 推進室が担当して開講します。

1 つは「仏教を体験してみよう」と題し、①止観（天台宗に伝わる瞑想法）、②写経、③念仏・礼拝 という内容で、体験して身をもって仏教を感じていただく講座です。

10月1日の ①「止観」では BSR 推進室、塩入法道仏教学部教授が、まず止観について解説をし、その後小一時間の止観（瞑想）を実修しました。40代から80代の男女、16名が受講し、皆さんの真剣に止観に臨む姿勢に、仏教に対する関心と期待の高さを感じました。

2つ目は11月19日から始まる「終活と身近な



仏事」（全5回）です。これから日本は年々死者が増加する「多死社会」となると言われています。そんな中、「終活」という言葉が生まれました。死を考えると自ずと生が見えてきます。ご自身の終焉について考えるきっかけとなる、エンディングノート、葬儀・葬送の基礎知識、グリーフケア等について講義します。

これら講座の内容については、随時報告していきたいと思います。（M）

BSR 図書室

小谷みどり 著

だれが墓を守るのか 多死・人口減少社会の中で
(岩波ブックレット、2015 年、560 円+税)

著者の小谷みどり氏は、第一生命経済研究所の首席研究員で、これまで一貫して葬送や供養（墓）に関するテーマを研究してきた方です。社会や家族の変容にともない、供養墓はどのように変わっていくのか、本書は統計データを参照しながら、これまでの墓の変化をふまえ、現在から未来への展望を示すものといえます。

第 1 章「墓のイロハ」では、墓を取り巻く現状として、墓地の価格高騰、墓不足、墓地継承者の問題を照射します。

第 2 章「墓の変容」では、どこに入るか、誰と入るかといった人々の意識の変化や、縦長で三段式の和型墓石から横長で背の低い洋型墓石へと墓石のトレンドが変化してきていることなどを紹介しています。

第 3 章「墓の現代的問題」では、祭祀されない死者の増加の問題にスポットを当てています。前号の研究ノートでは



「看取り難民」を扱いましたが、そのお墓バージョンといってもいいでしょう。無縁墓の増加や少子化の中で先祖の墓をどうするかといったことは切実な問題です。

第 4 章「供養の社会化」では、墓の無縁化は、誰にでも起こりうるものと警鐘を鳴らします。さらに、無縁化させない仕組みとして、使用期間を設定できるような墓地行政や、血縁を超えた人たちが墓を共有する「永代供養墓」や「共同墓」での供養などを提示します。

死にゆく人と遺される人、お墓には両者の視点が必要です。本書を読みながら、もし自分だったら…と両者の視点から考えてみるのもよいかもしれません。(T)

今後の予定

10月24日(土)	11時～12時 9時～13時 13時～15時
11月2・3日	大正大学鴨台祭
11月6～14日	すがも中山道菊まつり
11月7日(土)	11時～ 9時～13時 13時30分～ 18時～
11月14日(土)	11時～12時 13時～15時

花会式(浄土宗)	鴨台観音堂前
あさ市	南門 けやき広場
お坊さんカフェ「僧話花」	5号館 1階
仏教青年会「ぶっちゃけ堂トークショー」他	
大正大学ほか巣鴨地区各所	
菊まつり特別法要	鴨台観音堂前
あさ市	南門 けやき広場
浄土宗関連大学「地域活動フォーラム<共生>」	
こどもの城合唱団コンサート	礼拝堂
花会式(真言宗豊山派)	鴨台観音堂前
お坊さんカフェ「僧話花」	5号館 1階

※14日は「あさ市」はありません。

巻頭言執筆者 紹介

副島弘道(そえじま ひろみち)

大正大学 文学部 歴史学科 教授

東京芸術大学 美術学部卒業

東京芸術大学大学院 美術研究科 修了(修士<芸術学>)

専門は、日本と東洋の仏像を中心とする仏教美術史の研究。

仏像を中心とする文化財の保存修理の研究。

文化審議会専門委員や東京都、神奈川県等、各自治体の

文化財保護審議会委員を務める。

